

IFLA/PAC FAQ

In case of disaster...having a disaster plan 災害に備えて～防災計画を立てる（日本語訳）

<基本資料>

この Q&A は、以下のマニュアルを基に、国立国会図書館及び他の図書館の知見と経験に基づいた情報を加えて作成したものです。

- IFLA Disaster Preparedness and Planning: A Brief Manual （以下 IFLA マニュアル） <https://www.ifla.org/publications/node/8068?og=32>
(日) [IFLA 災害への準備と計画：簡易マニュアル \(PDF:455KB\)](#)

構成：

- Q1&Q2: 導入
Q3: リスク評価
Q4-Q5: 予防/保護
Q6-Q7: 準備
Q8-Q9: 対応
Q10: 復旧
Q11: 参考情報

Q 1. なぜ、起こらないかもしれない災害に備え、自館の防災計画を立てておくことが必要なのですか？

A 1. 災害はどんな機関にも起こる可能性があります。災害には、地震、山火事、ハリケーンや台風、豪雨による水害、土砂崩れなどの自然災害、建物の構造や設備の不備からくる水害や火事、テロや放火など人為的リスクまで様々なものが含まれます。自然災害をはじめとして多くの場合、私たちはその発生を止めることはできませんが、あらかじめ対策をとることで、リスクを減らすことは可能ですし、発生した時にすべきことがわかっているならば、適切かつ迅速な対応によって結果的に被害を小さくすることができます。

また、自館の防災計画を策定することにより災害のリスクと防災のためにできることを職員及びステークホルダーと共有し、準備に必要な人的・経済的資源について理解を得ることが可能となります。

Q 2. どのようなステップで災害に対処しますか？

A 2. 多くの関連のガイドラインやマニュアルでは、災害対応（Disaster management）のプロセスは、リスク評価（risk assessment）、予防・保護（prevention, protection）、

対策・準備 (preparedness)、対応 (response)、復旧 (recovery) の段階に分類されています。

リスク評価—最初にすべきことは、自館が想定すべき災害のリスクを的確に把握することです。自館の置かれている状況下では、どんな災害の危険性が高いか、また発生した場合の被害の重大性についてランク付けして把握する必要があります。ほとんどの図書館の場合、大小の水害と火事が最も危険性が高いでしょう。それ以外にそれぞれの図書館によって異なるリスクがあります。例えば日本のように地震が多い国では地震対策の優先度が高くなります。

予防・保護—IFLA マニュアルでは「予防とは、事故の発生を防止するための対策に関すること」、「保護とは、事故が発生した際に資料の損傷を抑えるための対策に関すること」とあります。被害を抑えるために出来ることを検討し、可能な範囲で実行します。

準備—災害に対処する準備を行います。資料防災計画の作成、対応を指揮する責任者や実行チームの組織、具体的行動の想定と訓練、必要となる設備や用具の準備などが含まれます。

対応—実際に災害が発生した段階です。準備が十分できていれば、迅速で適切な対応が取りやすくなります。

復旧—図書館のサービス、施設、蔵書を通常の状態に戻す段階です。この段階にかかる期間は、被害の規模によって大きく異なります。

Q 3. どのような観点で自分の機関の災害リスクを評価すべきでしょうか。参考となる情報がありますか？

A3. IFLA マニュアル、ICA ガイドライン (A12 参照) にチェックすべきリスクが列記されていますし、AIC(American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works) が提供している risk prioritization worksheet や walk-through checklist などのツールも有用です。 <https://www.culturalheritage.org/resources/emergencies/risk-evaluation-and-planning-program>

自然災害など建物外から来るリスクについては、まず国や地域の自治体の担当部局が発生のリスクや規模・程度の予想についての情報を公表しているか確認し、あればそれらの情報によって自館の被害のリスクを確認しておきます。

日本では多くの自治体が、その市区町村内の洪水や土砂災害などの危険性の高い地域を示した「ハザードマップ」を作成して HP 等で公表しています。

(例) 江東区洪水ハザードマップ

https://www.city.koto.lg.jp/470601/documents/map_flood_english.pdf (英)

https://www.city.koto.lg.jp/470601/documents/map_flood_japanese.pdf (日)

過去の災害による被害やその土地の歴史を記録した郷土史料や調査研究も重要な情

報源となります。

建物内のリスクも様々ありますが、特に雨漏りや配管の破損が起りやすい箇所、火を使う場所など、水の事故、火事の発生源となりうる箇所を把握します。

Q 4. 予防、減災にはどのような対策から取り組むべきですか？

A4. リスクアセスメントの結果を元に、弱点となるところを中心に対策を講じ、準備をします。火災、水害に関しては、まず建物や電気設備、配水設備等の点検を定期的に行うこと、防水、防火設備、火災検知設備等を整備することが挙げられます。詳しくは IFLA マニュアルの予防と保護（Prevention and protection）の章を参照。他には、外部からの災害警戒情報を速やかに得られるよう手段を確保しておくこと、貴重資料は館内でできるだけ安全な場所に保存することなどが考えられます。例えば、川や海が近く水害のリスクが高ければ、低い層での保管は避ける等。デジタル化などのメディア変換により代替資料を確保しておくことも、対策の一つです。

Q 5. 地震による資料の被害を最小に抑える対策にはどんなものがありますか？

A5. 地震はしばしば火災や水道管の損傷等による水害、津波等を引き起こすため、対策も多岐にわたりますが、ここでは、倒壊・施設の損傷、落下による資料の被害を防ぐための対策を紹介します。まず、建物の耐震度をチェックし、可能であれば建物自体の免震化、又は耐震強化を行います。書架の倒壊を防ぐには、床や壁への固定や書架同士の連結などがあります。書架に落下防止バーやテープを貼る等の対策も有効です。大型本は書架の下段に配架する、なるべく書架の奥に置くだけでも有効です。貴重な資料は保存箱に入れておくことで水濡れや落下による破損を減らせます。窓ガラスや照明器具に飛散防止フィルムを貼る等も有効です。

Q 6. 資料防災計画（Disaster plan）にはどのような内容を含めるべきですか？

A6. 機関の規模、想定されるリスクの種類によっても異なりますが、以下の内容を含めます。計画のドキュメントは電源が喪失した場合に備えて、プリントアウトしたものを備えておきます。

—災害対応の指揮系統と対応チームの構成、それぞれの役割、連絡先。開館中と夜間・休日等の閉館中の両方のケースを想定しておく。

—初動対応の手順—リスクの高い災害別、資料種別。チャートのようにすぐに見やすい形にまとめてあるとよい。

—優先的に救出する資料とその配架図

—初期対応用品のリストと保管場所

—訓練の実施と計画の更新について定期的に繰り返し行います。

そのほかに、外部の救急サービスや資料の救済・復旧で支援を求めることのできる連

携先、保険の情報等。

他図書館の計画（英語）については、以下のページ、テンプレートについては A.12 を参照。

➤ Disaster Plans. CoOL (Conservation Online)

<http://cool.conservation-us.org/bytopic/disasters/plans/>

Q 7. 対応準備 (preparedness) にはほかにどんなものがありますか？

A7. 緊急時対応のために直ちに必要の道具や消耗品を揃えて準備しておきます。IFLA マニュアルの Appendix や多くの公開されている図書館の防災計画で緊急対応グッズの一覧を見ることができます。大きく分けて、対応する人の安全と健康を守るためのもの、資料を乾かす、被災資料を救出する、被害箇所の拡大を防ぐためのもの、被害と対応を記録するためのものが含まれます。

また、外注業者を含む職員を対象に、防災意識を高める研修を実施し、定期的に訓練を行うこと。米国議会図書館の資料保存部門が災害の種類・レベル別のシナリオとそれに備えて考えておくべきことのツールを提供しています。

➤ Library of Congress. A Preservation Planning Tool: Table Top Planning Scenarios, Level of Collections Emergency.

<http://www.loc.gov/preservation/emergprep/plan/scenariosII.pdf>

それらを参考にして、自分の機関にあったシナリオを作成して、訓練をすると良いでしょう。決められた対応手順に問題がないか確認して、必要なら修正を加えます。また、できれば初期対応・救済だけでなく、復旧のシナリオ（支援を要請する関係機関や資金源等の想定も含む）も検討しておくとも良いでしょう。

Q 8. 災害が発生した時、資料の救済のための初期措置で大切なことは何ですか？

A8. 第一に人命の安全を優先すること。建物内や周囲の安全が確認されてから、被害が拡大しない措置と資料の救出作業を始めます。救出は水に濡れた資料が最優先となります。大きな地震の場合は、余震によって建物や設備がさらに損傷するケースもあるので、注意が必要です。台風や洪水などで被害があらかじめ予想できる場合がありますが、避難する時間と経路を確保できる場合に限り可能な範囲で資料の保護や移動を行います。被災状況及び初期対応の記録を取っておくことも重要です。

Q 9. 水損資料の救出・処置で重要なことは何ですか？

A9. 水没した資料は48時間以内にカビが発生する可能性があるため、それを念頭に迅速に対応します。被害を拡大しない措置を取った後、被災資料はまずは乾かすことが第1の選択肢ですが、被害の規模や資料の種類によっては、優先順位をつけます。紙資料であれば、資料の状態を落ち着かせ本格的な修復までの時間を稼ぐためにひとまず冷凍

する等も考えられます。処置をする人は必要に応じてマスク、手袋等で防護します。

水損資料の処置については、紙資料以外の資料の対応も含め、下記サイトをはじめ多くのマニュアルがインターネットで公開されています。(A11 参照)。

- “What To Do When Collections Get Wet.” Preservation Directorate, Library of Congress.

<http://www.loc.gov/preservation/emergprep/dry.html>

Q 10. 資料の復旧では、どのようなことを考慮しますか？

A10. 組織全体として、どのサービスを優先して復旧させるかを決めた BCP(Business Continuity Plan)を作成している場合は、それと照らし合わせて方針を決め、具体的な復旧計画を立てます。あらかじめ復旧の手順や想定を決めておくとスムーズに進むでしょう。コストを見積もり、使える資源や外部からの支援を検討して、優先順位をつけます。被害の規模や程度によっては、すべての資料を修復、復旧することは難しいかもしれません。希少性、必要性、代替資料が入手可能か等で判断します。被災資料の修復は、修復専門家が自館にいない場合は、外部の機関や専門家に助言を求めます。

Q 11. 資料防災に参考になる情報にはどのようなものがありますか？

A11. IFLA マニュアルには巻末に長い参考文献リストがあります。そのほか、以下の資料やサイトも有用です。

- ※ 海外の図書館員向けに作成した資料のため、紹介している参考情報は英語のウェブサイト等です。日本語版があるものにかぎり、日本語版を追記しています。国内については、国立国会図書館ホームページの「資料防災のページ」https://www.ndl.go.jp/jp/preservation/collectioncare/disaster_p.html をご覧ください。

<資料防災全体>

- IFLA Disaster Preparedness and Planning: A Brief Manual
<https://www.ifla.org/publications/node/8068?og=32>
(目) [IFLA 災害への準備と計画：簡易マニュアル \(PDF:455KB\)](#)
- ICA Study n°11: Guidelines on Disaster Prevention and Control in Archives. Author(s):. Committee on Disaster Prevention. Date Added: 1 September 2011.
<https://www.ica.org/en/ica-study-n%C2%B011-guidelines-disaster-prevention-and-control-archives>
- NEDCC. *Preservation Leaflet. 3.3: Emergency Planning.*
<https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/3.-emergency->

[management/3.3-emergency-planning](#)

- ICCROM. Disaster Resilient Heritage. First Aid to Cultural Heritage. FAC Resources. <https://www.iccrom.org/themes/disaster-resilient-heritage/first-aid-cultural-heritage-fac/fac-resources>
ICCROM 作成の非常時における文化財応急措置に関するマニュアル類と参考情報リンク集。

<リスクアセスメント>

- AIC (American Institute for Conservation of Historic and Artistic Works) Risk prioritization worksheet. Walk-through checklist.
<https://www.culturalheritage.org/resources/emergencies/risk-evaluation-and-planning-program>

<防災計画>

- Disaster Plans. CoOL (Conservation Online)
<http://cool.conservation-us.org/bytopic/disasters/plans/>
- California Preservation Program. “Library Disaster Plan.”
<https://calpreservation.org/wp-content/uploads/2015/10/CPTF-Disaster-Plan-Generic-2003.doc>
- NEDCC. Preservation Leaflet 3.4: Worksheet for Outlining a Disaster Plan.
<https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/3.-emergency-management/3.4-worksheet-for-outlining-an-emergency-response-plan>
- Library of Congress. A Preservation Planning Tool: Table Top Planning Scenarios, Level of Collections Emergency.
<http://www.loc.gov/preservation/emergprep/plan/scenariosII.pdf>

<資料救済マニュアル>

- “What To Do When Collections Get Wet.” Preservation Directorate, Library of Congress.
<http://www.loc.gov/preservation/emergprep/dry.html>
- National Library of Australia. Collection Disaster Plan. Part 2: Disaster Actions.
<https://www.nla.gov.au/collection-disaster-plan/disaster-actions>
Section 8 が災害別、Section 9 が資料種別の対応マニュアルになっている。
- NEDCC. Preservation Leaflet.
<https://www.nedcc.org/free-resources/preservation-leaflets/overview>
3.6 Emergency Salvage of Wet Books and Records

3.7 Emergency Salvage of Wet Photographs

3.8 Emergency Salvage of Moldy Books and Paper

3.12 Freezing and Drying Wet Books and Records

- “Drying wet materials.” National Diet Library.
http://www.ndl.go.jp/en/preservation/pdf/Drying_wet_materials.pdf
(目) [水にぬれた資料を乾燥させる](#) (国立国会図書館)
- Manual for Cultural Heritage Disaster Risk Mitigation: Examples for Cleaning Soiled Paper Materials. Secretariat Office of the National Task Force for the Cultural Heritage Disaster Mitigation Network.
https://www.youtube.com/watch?time_continue=55&v=lzmavZS7pu8
(目) 「文化財防災マニュアル ～汚損紙資料のクリーニング処置例～」 (国立文化財機構文化財防災ネットワーク推進室)
<https://www.youtube.com/watch?v=LyPvZWOddkA>